

# 川股池（かわまたいけ）

## 位置図



## 諸元

貯水量	272	千m <sup>3</sup>
満水面積	3.5	ha
受益面積	112.6	ha
堤高	26	m
堤長	95	m

川股池は徳島県に接する県の東端、東かがわ市川股の馬宿川上流にあるため池です。

昔は下流にある小路池を川股池と呼んでいましたが、このため池の築造にあつては、明治42年(1909年)ころに大地主の佐野新平が、この地の水利の不備が原因で小作料が入らない等の理由から、相生村川股に相生池というため池の築造話を持ちかけたことが始まりだと言われています。しかし、当時の相生池の築造は水没する農家から猛反対され、計画は断念されました。

その後、川股池として昭和11年(1936年)に農用公共施設事業で本格築造に取りかかり、昭和13年(1938年)末に完成しましたが、完成直後から漏水が著しく、下流住民からため池の安全性に対する苦情が続出したことから、貯水が出来ず、長い間ため池の機能が果たせずにいました。

昭和30年(1955年)4月に引田町・相生村・小海村が合併する際、旧町村とも水資源には大変苦労していたため、合併の条件として川股池の上流にダム建設の条項を入れています。町村合併と同時にダムの建設が許可され、昭和30年(1955年)に県営かんがい排水事業として着手し、昭和38年(1963年)3月に直線重力式コンクリートダムが完成しました。

このダムは坂谷の口という所で構築されていたため、坂谷ダムと呼ばれていましたが、昭和40年代になって、川股池の漏水防止策が成功し、貯水可能となってから坂谷ダムを川股池とし、川股池は所在する土地の名から小路池と名づけられました。

川股池に隣接した阿波に通じる道は、地元商工会が整備して、ハイキングコースに指定しており、周辺には桜と楓が植栽され四季折々の風景を楽しむことができます。



川股池



小路池（旧川股池）